

1. 事業説明シート(1)

<b>事業名</b> 林道事業 [森林基幹道開設事業 (国補)]		<b>事業箇所</b> 甲州市大和町田野~大月市笹子町白野	<b>地区名</b> 林道大蔵沢大鹿線	<b>事業主体</b> 山梨県							
<b>(1) 事業着手年度</b>	H6年度	<b>(2) 事業期間</b>	H6年度~H23年度	<b>(3) 完了後経過年数</b> 5年	<b>(4) 総事業費</b> 2,286百万円						
<b>(5) 事業着手時点の課題・背景</b>			<b>(8) 事業位置図等</b>								
<p>本路線は甲州市大和町田野大蔵沢流域から大月市笹子町滝子川流域までの広大な森林を管理する骨格的な林道である。起点は県道大菩薩初鹿野線に、終点は大月市道大鹿沢線に接続している。</p> <p>利用区域1,224haの内、ヒノキ、カラマツ等の人工林面積は526haを占めており、森林の持つ水土保持機能等の公益的機能を高めるとともに、森林資源の持続的な供給を図るため、当該路線は不可欠の施設である。</p> <p>また、森林管理のほか、森林レクリエーションの場としての滝子山へのアクセス道にもなっており、地域の振興、活性化にも大いに寄与されることが期待されていた。</p>			<p>「この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の電子地形図25000を複製したものである。(承認番号平29情複、第953号)」</p> <table border="1"> <tr> <th>凡</th> <th>例</th> </tr> <tr> <td>— (Red solid line)</td> <td>事後評価対象区間</td> </tr> <tr> <td>- - - (Green dashed line)</td> <td>事後評価非対象区間</td> </tr> </table>			凡	例	— (Red solid line)	事後評価対象区間	- - - (Green dashed line)	事後評価非対象区間
凡	例										
— (Red solid line)	事後評価対象区間										
- - - (Green dashed line)	事後評価非対象区間										
<b>(6) 事業着手時点で想定した整備目標・効果</b>											
<p><b>(事前評価未実施)</b></p> <p><input type="checkbox"/> 主要目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>森林整備の効率化</li> </ul> <p><input type="checkbox"/> 副次目標</p> <p>なし</p> <p><input type="checkbox"/> 副次効果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>防火帯の確保</li> <li>林業生産力の向上</li> <li>リサイクルの推進 (間伐材や再生資材の活用)</li> </ul>											
<b>(7) 整備内容 (目標達成の方法)</b>											
<p>森林基幹道の開設、実施延長5,281m、幅員0m → 4.0m (未舗装)</p>											

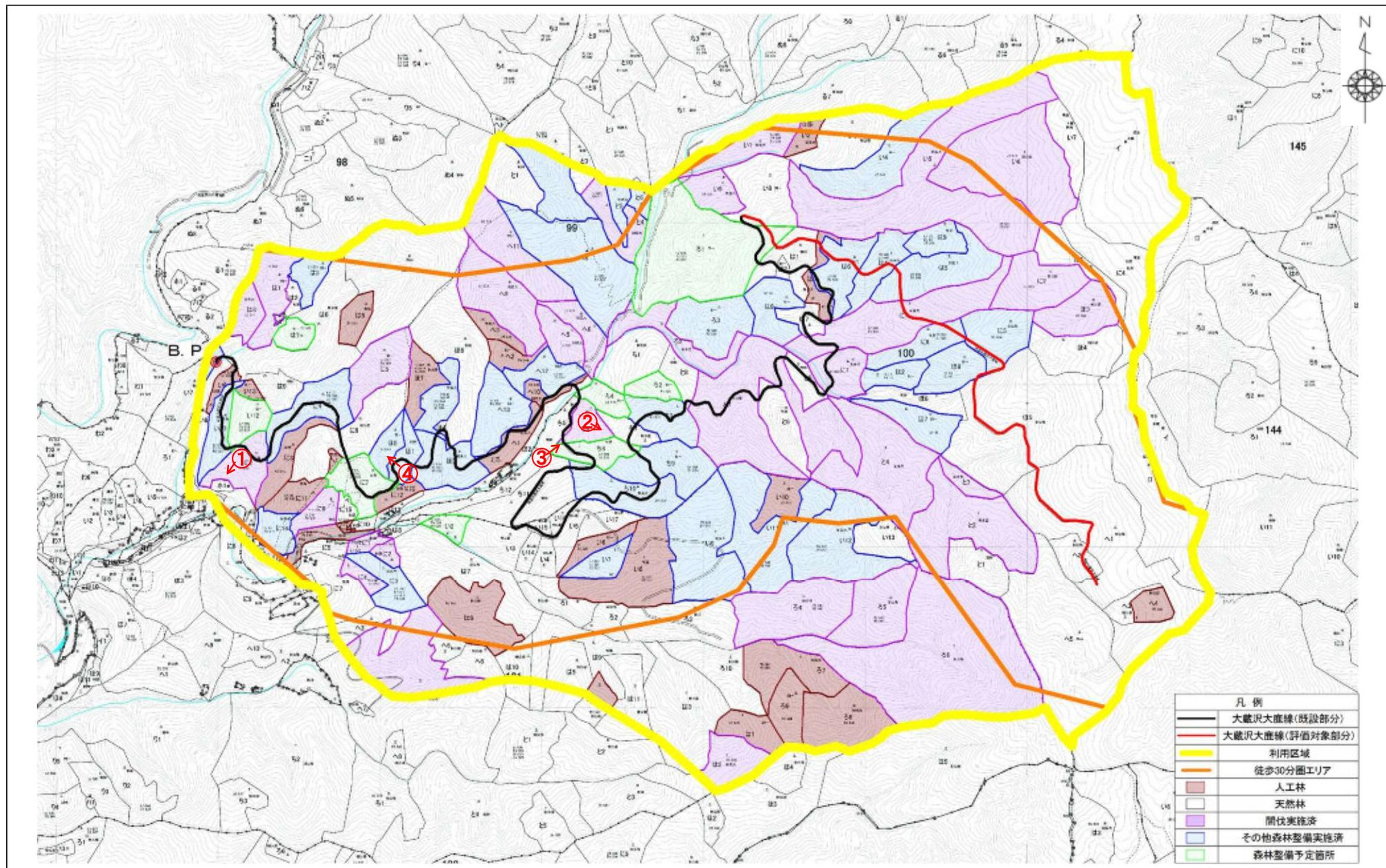
## 2. 評価シート（1）

<p><b>(1)事業貢献度</b> &lt; (良)・不良 &gt;</p> <p>(理由) 林道が開設された区間においては、主伐や間伐などの森林整備が県有林管理計画に基づき計画的・効率的に実施され、健全な森林が形成されている。 また、区域内の森林から間伐材が搬出され、森林資源の有効利用に貢献している。</p> <p><b>①主要目標 森林整備の効率化</b> 伐採対象人工林割合18% 利用区域内人工林率40%</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>指 標</th> <th>着手時点数値等</th> <th>評価時点数値等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>徒歩30分範囲内の人工林率</td> <td>55% <small>(大和工区67%、大月工区0%)</small></td> <td>67% <small>(大和工区74%、大月工区32%)</small></td> </tr> </tbody> </table> <p><input type="checkbox"/>評価時点の数値に対する評価 人工林のうち徒歩30分範囲内の区域割合が基準値の70%に到達していない。 これは、工区を分割したことにより大月工区の人工林が第2期計画に偏ったことから、第1期計画大月工区の指標が32%であったため。なお、第1期計画大和工区の指標は74%と基準値に達成している。</p> <p><b>②副次目標</b> なし</p> <p><b>③副次効果</b></p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>防火帯の確保</td> <td>防火帯（防火線）として必要な幅である概ね10m以上を満たす（林業技術ハンドブック）防火帯を確保できた。</td> </tr> <tr> <td>林業生産力の向上</td> <td>林業生産と市場を結ぶ輸送路の確保、高性能林業機械による低コスト作業が可能となった。</td> </tr> <tr> <td>リサイクルの推進（再生資材の活用等）</td> <td>以前は林内放置していた間伐材の有効利用がなされた。林道工事に再生砕石を利用した。</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>④その他の事業効果の発現状況</b> 大鹿峠を經由し滝子山への登山ルートとして、登山に広く利用されている。</p>	指 標	着手時点数値等	評価時点数値等	徒歩30分範囲内の人工林率	55% <small>(大和工区67%、大月工区0%)</small>	67% <small>(大和工区74%、大月工区32%)</small>	項 目	内 容	防火帯の確保	防火帯（防火線）として必要な幅である概ね10m以上を満たす（林業技術ハンドブック）防火帯を確保できた。	林業生産力の向上	林業生産と市場を結ぶ輸送路の確保、高性能林業機械による低コスト作業が可能となった。	リサイクルの推進（再生資材の活用等）	以前は林内放置していた間伐材の有効利用がなされた。林道工事に再生砕石を利用した。	<p><b>(2)費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化</b> &lt; (有)・無 &gt;</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>着手時点の計画</th> <th>事後評価時点の実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総事業費</td> <td>3,133百万円</td> <td>2,286百万円</td> </tr> <tr> <td>工 期</td> <td>H6~H27</td> <td>H6~H23</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">経済効率性</td> <td>費用</td> <td>4,574百万円</td> </tr> <tr> <td>便益</td> <td>4,548百万円</td> </tr> <tr> <td>B/C</td> <td>1.01</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>H15再評価※1</th> <th>H20再評価※2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総事業費</td> <td>5,478百万円</td> <td>2,381百万円</td> </tr> <tr> <td>事業期間</td> <td>H6~H20</td> <td>H6~H23</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 H15再評価 地質が悪かったため、法面保護工等が増額になったことから総事業費を見直した。また、事業期間が長期に亘るなか、事業進捗に遅れが生じているため、工区を分割して事業期間を見直すこととした。</p> <p>※2 H20再評価 急峻地形により進捗に遅れが生じたため、事業期間を見直した。</p> <p>(要因変化の分析) ○総事業費 路肩縮減や構造物の縮小及び再生資材の使用等により、約4%縮減した。 ○工期 時間管理の徹底により、計画期間内で第1期計画を完了した。</p> <p><b>(3)事業実施による環境の変化</b></p> <p><b>①自然環境への影響</b> 間伐などの森林整備を実施することにより下層植生が繁茂し、保水能力の上昇や降雨による表土の流出が少なくなるなど、公益的機能が向上し地球温暖化防止、山地災害の防止に貢献している。</p> <p><b>②生活・居住環境等への影響</b> なし</p> <p><b>③環境保全対策の効果の発現状況（措置を講じた場合）</b> なし</p> <p><b>(4)社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響</b></p> <p><b>①社会経済状況の変化</b> なし</p> <p><b>②関連計画・関連事業の状況の変化</b> なし</p> <p><b>③事業環境等の変化</b> なし</p>	項 目	着手時点の計画	事後評価時点の実績	総事業費	3,133百万円	2,286百万円	工 期	H6~H27	H6~H23	経済効率性	費用	4,574百万円	便益	4,548百万円	B/C	1.01	項 目	H15再評価※1	H20再評価※2	総事業費	5,478百万円	2,381百万円	事業期間	H6~H20	H6~H23
指 標	着手時点数値等	評価時点数値等																																						
徒歩30分範囲内の人工林率	55% <small>(大和工区67%、大月工区0%)</small>	67% <small>(大和工区74%、大月工区32%)</small>																																						
項 目	内 容																																							
防火帯の確保	防火帯（防火線）として必要な幅である概ね10m以上を満たす（林業技術ハンドブック）防火帯を確保できた。																																							
林業生産力の向上	林業生産と市場を結ぶ輸送路の確保、高性能林業機械による低コスト作業が可能となった。																																							
リサイクルの推進（再生資材の活用等）	以前は林内放置していた間伐材の有効利用がなされた。林道工事に再生砕石を利用した。																																							
項 目	着手時点の計画	事後評価時点の実績																																						
総事業費	3,133百万円	2,286百万円																																						
工 期	H6~H27	H6~H23																																						
経済効率性	費用	4,574百万円																																						
	便益	4,548百万円																																						
	B/C	1.01																																						
項 目	H15再評価※1	H20再評価※2																																						
総事業費	5,478百万円	2,381百万円																																						
事業期間	H6~H20	H6~H23																																						

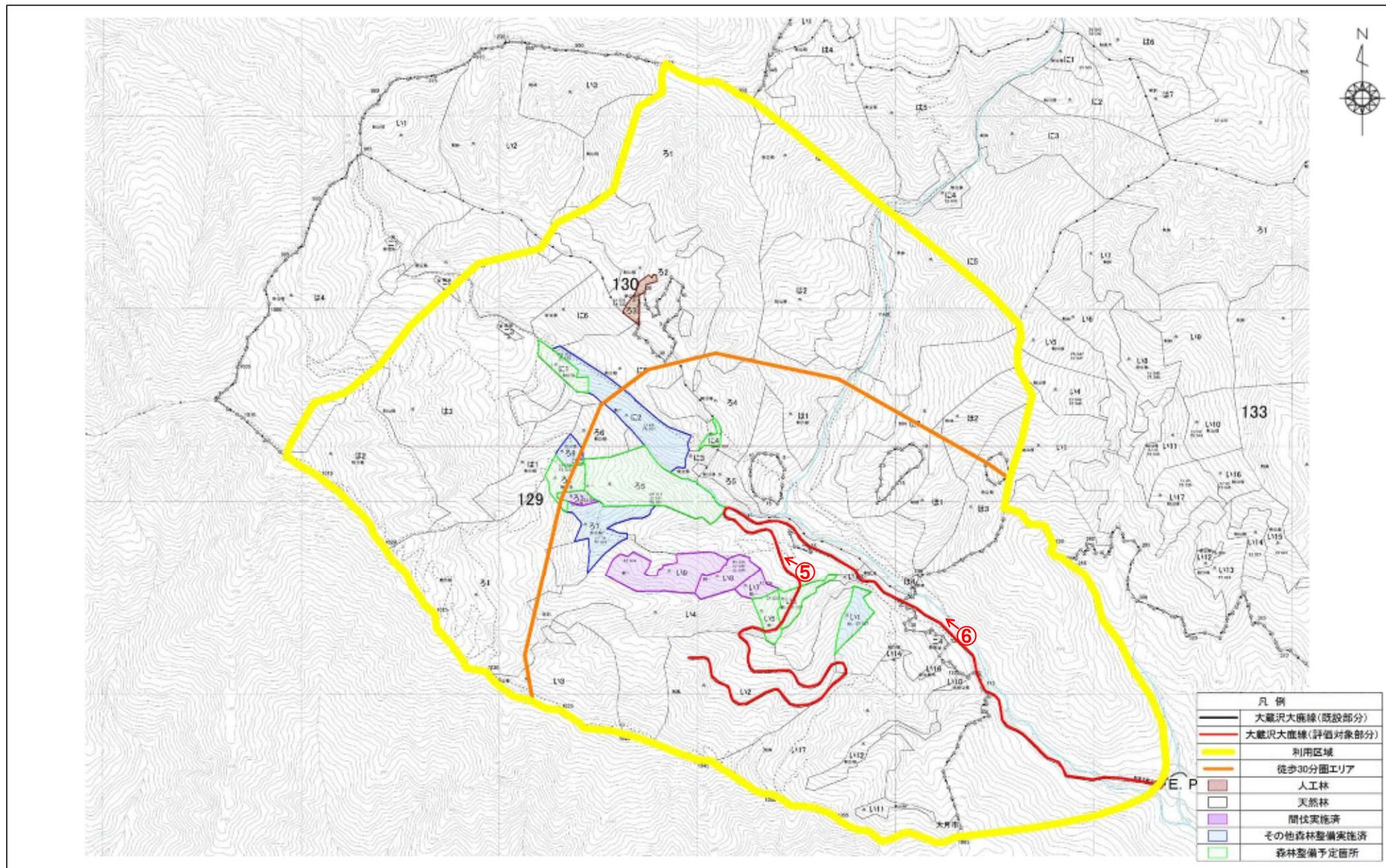
評価シート（2）

<p>(5) 今後の事後評価の必要性 <span style="float: right;">〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</span></p> <p>(理由)                  林道が開設された区間においては、主伐や間伐などの森林整備が県有林管理計画に基づき計画的・効率的に実施され、健全な森林が形成されている。                  また、区域内の森林から間伐材が搬出され、森林資源の有効利用に貢献している。</p> <p>□「有」の場合の実施時期及び方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 時期：        年度</li> <li>・ 方法：</li> </ul>	<p>(7) 同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 <span style="float: right;">〈 <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 〉</span></p> <p>(理由)                  第1期計画は、計画期間内に完了し、第1期計画対象区域内の森林整備を計画的に実施している。                  第2期計画については、第2期計画対象区域内の森林整備計画に基づき適期に路網整備を進めることとするが、第2期計画事業実施にあたっては、費用対効果を検証し評価委員会に諮ることとしたい。</p> <p>(具体的反映策)                  なし</p>
<p>(6) 本事業における改善措置の必要性 <span style="float: right;">〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</span></p> <p>(理由)                  なし</p> <p>(具体的反映策)                  なし</p> <p>(既の実施した改善策の内容と効果)                  なし</p>	<p>(8) 事業評価手法の見直しの必要性 <span style="float: right;">〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</span></p> <p>(理由)                  なし</p> <p>(具体的反映策)                  なし</p> <p>(9) その他特筆すべき事項 <span style="float: right;">〈 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 〉</span></p> <p>なし</p>

●大蔵沢大鹿線森林整備実績図(大和工区)



●大蔵沢大鹿線森林整備実績図(大月工区)





①林道沿線間伐実施状況



②林道沿線間伐実施箇所（5年後）



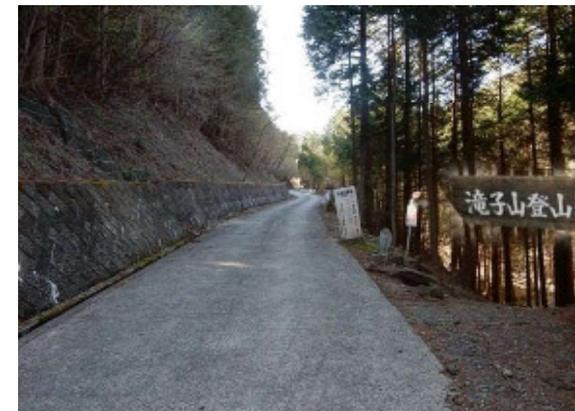
③間伐材搬出状況



④林道沿線主伐実施状況



⑤林道と登山道



⑥林道沿線登山道入り口

